# ヨットで人生豊かに

田尻町のマリーナ

## 親子体験教室が人気

ヨットは人生を3倍豊かにする―。府南部にある人口8千人余の小さな町・田尻町。同町りんくうポート北の田尻海洋交流センターでは、親子で参加できるヨット体験教室が人気を集めている。係留されているマリーナは漁港を兼ねており、隣接する漁協主催の朝市には人口の半数近くに匹敵する来場者が訪れるなど、地域ぐるみでの取り組みが注目されるホットスポットとなっている。

田尻マリーナ沖の空港連絡橋を背に操船するクルー

## 朝市とタッグ 注目度が上昇

すそ野の拡大が開催のきっかけで、スクール創設から10年間で全国2400人の卒業生を輩出している「青木ヨット」（田尻町）が主催。年4回のヨットレースを設けると同時に、「親子で楽しむ普及事業」として2008年度からは「おおさか地域創造ファンド」に2カ年の採択を受け、週末を中心にその間600人が体験している。

体験教室を経て、スクールの門をたたく生徒も少なくない。特にスクール生では団塊の世代が顕著で、校長の青木洋さん(61)は「ヨットにあこがれた世代。勉強熱心で、退職後の人生できっちりと教育を受けてやりたいという人が多い」と話す。

同社によると、ヨットの在籍数は米国が156万隻に対し、日本は1万2千隻。人口比を考えるとその差は歴然だ。青木さんは「ぜいたくな娯楽だというイメージが普及を妨げている。実際はメンテナンスも個人でできり、意外とお手軽なスポーツ。Tシャツ、サンダルで来てほしい」と普段着での来訪を呼び掛けている。

一方で、同マリーナの珍しいところは、漁港を兼ねている点だ。マリンレジャーの拠点として国土交通省が推進する「海の駅」にも指定されているが、マリーナではなく漁港が名を連ねたのは「史上初」のことだという。共存していることから「エンジントラブルがあれば漁船が引っ張っていってくれる」（青木さん）こともしばしばだ。

田尻漁港の「日曜朝市」は、府内6カ所の「おさかな市場」（直売所）の一つとして、大阪府が推奨する「大阪ミュージアム構想」にも登録。年ごとに規模は拡張されつつあり、年間15万人が来場する一大サービスステーションとなって盛り上がり、相乗効果を生んでいる。

かつて〝信天翁二世号〟で単独世界一周を成功させた青木さん。「ヨットの普及はわたし自身のライフワーク。素晴らしさを多くの人に伝えられる体験の場をどんどん提供していきたい」と意欲的に話しており、今後も事業を継続していくつもりだ。

問い合わせは電話072(465)8192同社へ。詳細はホームページhttp://www.aokiyacht.com/で。